

第45回(秋季)自動車技術会賞

The JSAE Prize

自動車に関する学術の進歩発達に貢献し、その功績が顕著な個人に与えられる学術貢献賞、自動車に関する技術の進歩発達に貢献し、その功績が顕著な個人に与えられる技術貢献賞が1995年9月11日に発表された。今回は推薦があった授賞候補について、貢献賞選考委員会での選考の結果、次のとおり学術貢献賞2名、技術貢献賞3名の授賞が決定したものである。

なお、授賞式は1995年9月27日にビーコンプラザ(別府)において行われた。

◆学術貢献賞



嶋本 譲氏

滋賀県立大学工学部教授

(授賞項目)内燃機関におけるガス交換とシリンダー内ガス流動・噴霧に対する数値シミュレーション応用の進歩・発展への貢献

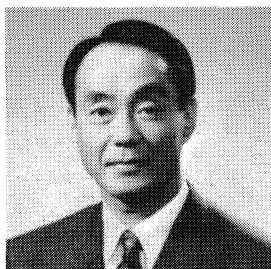
嶋本 譲氏は、1954年以来、京都大学、岡山大学、更に京都大学において、内燃機関の学術研究の発展に貢献し今日に至っている。その間、一貫して内燃機関のガス流動現象の数値解析の研究に携わり、数値流体力学の手法を応用した研究範囲は、一次元ガス交換から吸気弁部及びシリンダ内のガス流動、噴霧の挙動の予測にまで及んでおり、それらの研究業績を通して自動車用内燃機関の進歩・発展に著しい貢献をした。また1990年には

第2回「内燃機関の燃焼モデリングと計測の国際会議」の組織委員長として同会議を成功に導き、国際交流に貢献した。

更に自動車技術会では評議員、ディーゼル・ガソリン機関部門委員会委員、関西支部理事等を歴任し、会の発展に貢献した。

以上のように、同氏が内燃機関のガス流動現象の数値解析の分野において、基礎的、体系的研究により、学術の進歩と発展に多大の貢献をした。

◆学術貢献賞



井口雅一氏

(勲)日本自動車研究所所長

(授賞項目)自動車の運動性能及び安全性向上並びに自動車交通システムに関わる学術の進歩・発展への貢献

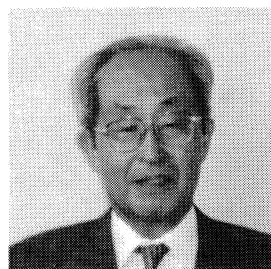
井口雅一氏は、1962年以來東京大学において、また1995年からは勲日本自動車研究所において自動車工学、車両工学、人間工学の学術研究の発展に貢献し今日に至っている。その間、自動車をマン・マシン・システムとして捉え、日本で最初に系統的に研究を進め、この分野の基礎学問を確立した。更に運転を含めた自動車のダイナミクス、自動車のインテリジェント化、安全設計、低公害車技術、自動車交通システムなどに関する学術の進歩・発展に絶大な貢献をした。

また、通産省産業技術審議会、運輸省運輸技術審議会、建設省建設技術開発会議、環境庁低公害

車検討会他数多くの公的機関の委員・委員長を歴任し、自動車産業の発展自動車を巡る環境や安全等の社会的問題の解決に向けて多大の貢献をした。更に、自動車技術会では、国際担当理事、1992年からは副会長を歴任し、国際的にはFISITA理事、タイ王国自動車技術学会設立、中国での自動車産業振興策の提言などアジア諸国の学術振興への貢献も著しい。

以上のように、同氏が自動車工学及び自動車を巡る環境や安全等の分野において基礎的、体系的の研究により学術の進歩・発展に多大の貢献をした。

◆技術貢献賞



芹沢良夫

(株)ジャトコ相談役

(授賞項目)多年にわたる自動車の安全に関する技術水準の向上及び自動車用変速機の普及への貢献

芹沢良夫氏は1948年、日産自動車(株)に入社以來、一貫して日本の自動車技術の水準向上と国際化に先駆者的貢献を行い今日の国際的水準へと導いた。

この間、自動車の安全性が世界的に問題になるや、同社における自動車安全技術の研究開発責任者として、米国運輸省交通安全局(NHTSA)のプロジェクトの実験安全車(ESV計画)に参画し、小型クラスの実験安全車を取りまとめたほか、日本自動車工業会の安全公害委員会安全対策部会長として業界及び官界活動により、日本の自動車安全基準についての運輸省への助言・提言・自動車メーカーの対応推進など、日本の自動車の安全性のレベル向上に貢献した。

更に、幅広い学会活動と国際的な活動により自動車の技術水準向上と国際規格化の進展に務め、ISOの自動車関係規格とJIS規格との差異の縮小に努力した。

1975年現ジャトコ(株)へ移って、大・中型乗用車を始め軽自動車から普通型トラックに至る各種自動車用自動変速機の多段化と電子制御等の幅広い独自の技術開発及び最新鋭のFA技術を駆使した量産化を通じて、国内外における自動変速機の普及・発達に貢献した。

自動車技術会においては規格担当理事、評議員、交通安全対策委員などの要職を歴任し、永年にわたり、わが国の自動車技術会の国際的活動に大きく貢献した。

◆技術貢献賞



揚妻文夫氏

関東自動車工業(株)取締役社長

(授賞項目)永年にわたり各種自動車技術・部品技術の研究開発並びに車両開発を通じて、自動車技術の向上・発展に貢献した業績

揚妻文夫氏は 1955 年、トヨタ自動車工業(株)に入社以来、長年にわたって、乗用車ボデーの設計技術、並びに車両の開発・商品化技術の向上に取り組んできた。

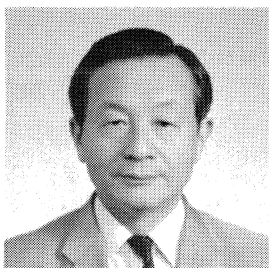
この間、一体構造をいち早く取り入れつつ、防音・防振・強度・耐久性・安全性・生産性に優れた軽量・高剛性のボデーを実現し、乗用車ボデーの設計技術を、国際水準にまで高めた。また、排出ガス規制対応車両の開発、及び燃費・走行性・居住性を向上した前輪駆動方式車両の開発を成功さ

◆技術貢献賞

せ、世界のベストセラーカーの地位を確保すると共に、先進乗用車の開発技術を格段に向上させた。

更に、1989 年、関東自動車工業(株)に転籍後も車両の開発技術に尽力し、特に、スタイル CAD などデザイン分野の技術革新に大いに貢献した。

自動車技術会においては、評議員、中部支部理事・編集担当理事を歴任し、また(株)自動車工業振興会理事、(株)日本自動車研究所評議員、(株)自動車車体工業会理事等を歴任し広く自動車技術の交流や自動車技術会の発展に尽力している。



中西順三氏

(株)ナブコ専務取締役

(授賞項目)多年にわたる自動車用アンチロックブレーキの研究開発及びその普及活動による自動車用安全技術の向上への貢献

中西順三氏は 1953 年、現(株)ナブコに入社以来、自動車用アンチロックブレーキの研究開発、及びその普及活動を通じて、自動車の安全技術の向上発展に大きく貢献し今日に至っている。

この間、1961 年日本で最初に自動車用 ABS の開発に着手し、車輪の減速度制御による車輪ロック防止の可能性を実験的に証明し、車輪の減速度制御とスリップ率制御を組み合わせた制御方式の採用で、制御精度の良く安定した性能の後輪制御 ABS を開発し商品化した。この技術を背景に、独ボッシュ社から導入した前後輪制御 ABS の応用開発を進め、日本独自のブレーキ形式である AOH(エアオーバハイドロ)ブレーキ車に適用し

た大型 AOH 商用車用 ABS 等、日本車に適した前後輪制御 ABS の技術を確立し、自動 2 輪車から建設機械までの車種に対応する ABS を開発商品化した。

更に ABS に関する研究発表、技術講演及び投稿活動を行うと共に、公的団体や地域安全教室等約 3,000 人を対象に ABS の説明会・試乗会を実施する等、多分野の人々を対象に ABS の普及活動を積極的に行い、自動車の安全性向上に大きく貢献した。

また、自動車技術会においてはブレーキ部会委員をはじめ、各専門委員会委員、分科会幹事を歴任し、会の運営と発展に貢献した。